

告示	番号	32	悪性新生物
	疾病名	軟骨肉腫	

軟骨肉腫

なんこつにくしゅ

概要・定義

軟骨肉腫 (chondrosarcoma) は、組織学的に腫瘍性の軟骨形成を伴うが、腫瘍性の類骨・骨形成を伴わない悪性骨腫瘍と定義される (腫瘍性の軟骨形成と類骨・骨形成を示すものは骨肉腫に分類される)。通常型軟骨肉腫が最も一般的であるが、頻度の低い亜型として脱分化型軟骨肉腫、間葉型軟骨肉腫、淡明細胞型軟骨肉腫がある。通常型軟骨肉腫は細胞密度や核異型、骨梁への浸潤などの所見から低悪性度の grade 1、高悪性度の grade 2, grade 3 に分類される。

通常型軟骨肉腫には、原発性軟骨肉腫と多発性骨軟骨腫や多発性内軟骨腫などの先行病変から発生する二次性軟骨肉腫がある。

症状

局所の疼痛や腫脹で発症する。

二次性軟骨肉腫では先行病変の急激な増大や疼痛の出現などが見られることが多い。

血液検査では特に異常は認めない。

治療

治療の原則は十分な切除縁を確保した外科的切除である。化学療法や放射線治療の有効性は確立されていない。ただし、grade 1 の低悪性度軟骨肉腫では搔爬でよいという意見もある。

近年、脊椎・骨盤や頭頸部に発生した軟骨肉腫で外科的完全切除が困難または侵襲が大きく機能的損失が大きい症例で重粒子線治療が選択され、良好な短期成績が得られている。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/1_5_37.html